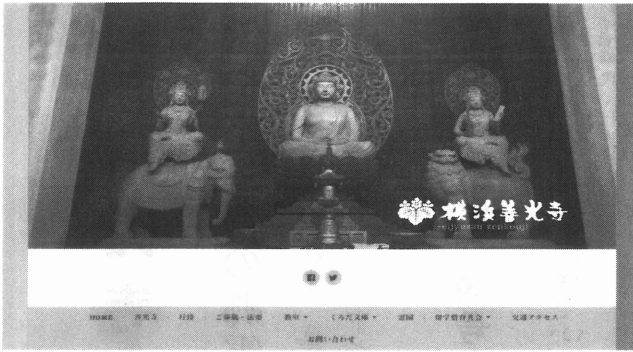


お気軽に覗いて下さい



お寺のブログ始めました。



お寺での行事予定

坐禅会や各種教室
の様子



善光寺の日常の風景
もお届けします

新しいホームページはこちら

<https://y-zenkouji.com>

 [@seijyuzanzenkouji](https://www.facebook.com/seijyuzanzenkouji/) <https://www.facebook.com/seijyuzanzenkouji/>

 [@info_zenkouji](https://twitter.com/info_zenkouji) https://twitter.com/info_zenkouji/



善光寺霊園ニユース

横浜やすらぎの郷霊園

「叱られた 恩を忘れず 墓参り」
どうぞごゆつくりお参り下さい。

◆やすらぎ通信 49号より

◆舞い散る花々に思ふ

日増しに暖かくなり桜の開花が楽しみになりました。やすらぎの郷霊園周辺にも桜の名所が幾つもあります。若葉台や海軍道路、三ツ境から西部病院へ続く野境道路もきれいですね。道路の両側に植えられた桜の大樹がトンネルを作るように咲き誇ります。開花からあつという間

に満開の桜。そして風に舞い散るさくら吹雪。そのいずれの姿も我々を楽しませてくれます。お経に次のようなお話があります。

ある時、お釈迦さまやそのお弟子さまたちのもとに天女があらわれて花びらを振り灌がれました。

はらはらと舞い散る花びらはそこにいた人々の頭や肩、衣などに降りかかります。お釈迦様にふりかかった花びらはすつーと落ちていきませんが、お弟子さまたちにふりかかった花びらは衣に張り付いて離れません。

懸命にそれを叩いて払いのけようとするお弟子さまたちの姿をみて天女が笑いながら尋ねます。「なぜ花びらを振り払おうとするのですか」

お弟子さまは答えます。「この花びらがついたらままで、出家した者、お釈迦さまの教えを学び修行をしている者の決まりに反することになるからです」

それを聞いた天女は「花びらが出家者にふさわしくないと分別しているのはあなた自身ですね。あなたが自分で『ふさわしい』『ふさわしくない』と分別をしているにすぎません。」

「お釈迦さまは分別から離れなさいと教えられているのにあなた方は『こうあるべき』という価値観で凝り固まっているから花びらが離れないのですよ」と諭されたという内容のお話です。さくらの花びらを体に受けながら思い出したいお話です。

(『維摩経』ゆいまききょう 観衆かんしゅう 生品じょうぼん)

私達が普段使用する『分別』とは、理性で物事の善悪・道理を区別してわきまえること(広

辞苑)とあり、良い意味で使われている言葉ですが、仏教では分別よりも分別を超えた無分別を大事にします。

分別とは物事を相対的に分けて考え、善悪や優劣、長短、大小など比較して判断をしますが、この比較する心が差別を生み、『あるがまま』に物事を観る事ができなくなると説くのです。先入観、固定観念が悩みをつくるものとなりま

『花は愛惜あいじやくに散り 草は棄嫌きけんに生おうる』
(『正法眼蔵』しょうぼうげんぞう 現成公案げんじようこうあん)

道元禅師のお言葉です。

分別から離れ無分別から起こる智慧を大事にしないといけないとわかっていても、花が散ればなんとも惜しい気がしますし、雑草は生えて欲しくないと思っているような場所に目立って

生えている気がしてきます。本当は花も草もこちらの気持ちを考えて存在しているわけではないのですが、受けとめる私達の心が自分を中心に考えししまうのです。

その自分を中心に考えてしまう心の癖を少しでも直す方法がお釈迦さまの教えを実践していくことです。

時期がくると桜をはじめ咲き誇る花々。その自然の有り難さに感謝して『あるがまま』に楽しみたいと思います。

合掌

◇ やすらぎ寺子屋

毎月イス坐禅や法話などお釈迦さまの教えに親しむ会を行っています。

イス坐禅は足の痛い方でも大丈夫です。難しく思うずにお気軽にご参加下さい。

◆ つれづれに『百花繚乱』に思ふ

『百花繚乱』とは種々の花が咲き乱れることから転じてすぐれた人、業績などがひと時にたくさんあらわれることをいいます。今年二月、平昌で行われた冬季オリンピック。その日本選手団の主将であるスピードスケートの小平奈緒選手がこの『百花繚乱』を日本選手団のテーマとして掲げたことで注目されました。言葉通り、多くの競技でたくさんのきれいな花々を私達に見せてくれました。

花無心にして蝶を招き、

蝶無心にして花を尋ぬ

ひとつひとつ

ひらいていった

良寛さんの詩です。選手たちは多くのものを犠牲にしながらもただひたすらに競技に打ち込み無心にその花を咲かせてくれました。それを見て自然に湧いてくる感動を味わいました。

念ずれば花開く 坂村真民

坂村真民さんは、『念ずれば花ひらく、坐すれば道ひらく』ともいわれました。
坐すればとは、坐禅のこと、心静かに自分自身を見つめることです。

生きてゆく力がなくなるとき 坂村真民

念ずれば

花ひらく

死のうと思う日はないが

生きてゆく力がなくなることがある

苦しいとき

そんなときお寺を訪ね

母がいつも口にしていた

わたしはひとり

このことばを

仏陀の前に坐ってくる

わたしもいつのころからか

力わき明日を思うところが

となえるようになった

出てくるまで坐ってくる

そうしてそのたび

わたしの花がふしぎと

坐とは心の内側にある静寂の世界に触れ、自

分の命に気づく行です。

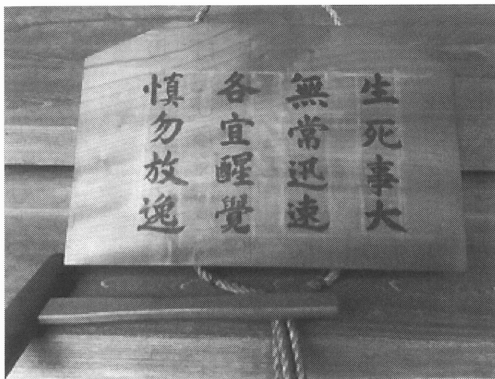
「わが心深き底あり、喜びも悲しみの波も届かじと思ふ」(西田幾多郎)

普段、生活をしている中で私たちの心には、喜怒哀楽の様々な感情が波風を立ててきます。でも深い海底には地上の風雨が影響しないように喜怒哀楽の波が及ばない深い心の底がある。命そのものでありましょう。その深き心の底に気づく行いが坐禅。

何かと慌しく忙しくしている日常だからこそ、ひと息ついて心静かなひと時を過ごしたいものです。

「明日死ぬかのように生きる。永遠に生きるかのように学べ」(ガンジー)

小平奈緒選手は今シーズンの開幕にあたり、ガンジーの言葉を引いて抱負を述べられました。



Great is matter
Birth and Death
Life is firsting gone gone
Awake Awake each one
Don't waste this life

寺の入口に掛かっている木板。

その板には次のような文字が記されています。

生死事大(生死の事はもつとも大切だ)

無常迅速(無常の風は迅速である)

各宜醒覺(皆よく目覚めなくてはいけない)

慎勿放逸(慎みそして怠けてはいけない)

学びは永遠です。学びに終わりは無い。修業と修行の違いをわかりますか？

「修業」は一つの業を修める事。修得すること。修得すれば卒業があります。

「修行」は行いを修め続けて行く事。修行に終わりは無いのです。永遠です。行い続けていく事が修行。何を行いつけていく？ 仏としての行いを続けること。それが仏道修行。お釈迦様のご人格のようなゆるぎない安らぎの心で生きていくことに懂れて、その教えを実践していくこと。

曹洞宗の修行の根幹は坐禅です。

根のない植物は枯れてしまいます。根がしっかりすれば多少の風にも負けずに花を咲かせることができます。

『坐禅』によって調べられた自己には、物事があるがままに見ることが出来る『智慧』と、自他を分かつことなく、共に喜び共に悲しみを

わかち合う『慈悲』の心が育ちます。

この目に見えない智慧と慈悲を目に見える形で表す修行が次の四つの徳目、四摂法です。

『布施』 ただ与えよう まごころを与えよう

布施というのは貪らざるなり へつらわざるなり

『愛語』 思いやりの言葉を口にしよう 愛語よく廻天の力あることを学すべきなり

『利行』 他の喜びを我が喜びとする 利行は一法なり普く自他を利するなり

『同事』 相手の身になり自他の垣根をつくらない やわらかなる容顔をもて一切にむかうべし
どうぞこれからも一人ひとり素敵な花を咲かせて参りましょう。それぞれがオンリーワンの花を。

(第八十二回、平成三十年三月四日法話レジュメより)

◇お手紙募集◇

テーマ：「亡き方へ今、伝えたい想い」

この度、やすらぎの郷霊園では、皆さまからのお手紙を募集します。

大切な方とのお別れの間であるお葬式は、亡き方の冥福を祈る形を取りながらも、実は祈ることで私たち一人ひとりが心の落ち着きを取り戻す儀式でもあります。しかしながら最近はお葬式の簡略化が進み、ゆっくりと亡き方を偲び祈る時間が少なくなってきました。

亡くなられた大切な方へむけて、短い時間では伝えられなかった想い、整理することが出来なかった想いなどを手紙に記すことで、悲しみを乗り越え心の落ち着きを取り戻すきっかけにもなります。

また時間が経って、あらためて伝えたい想い、何気ない日常の一コマの気持ちなどを切りとって書いてみませんか。亡き方の口癖や楽しい思い出、教えてもらったこと、叱られた時のこと、今だから素直に受け入れられることなどを振り返り、言葉にして綴ってみませんか？

※お送り頂いたお手紙は、「霊園ホームページ」や「やすらぎ通信」に掲載をさせて頂くことがあります。亡き方のご供養になります。恥ずかしがらずに是非、書いてみては如何ですか。

筆不精の方でも書き始めることで言葉がわいて、気持ちが整理されてきますよ。

やすらぎの郷霊園にお墓がある方や善光寺檀信徒の皆さんだけでなくお友達や知り合いの方からなどから幅広く受け付けます。詳しくは管理事務所又は善光寺迄お問合せ下さい。

《募 集 内 容》

文字数 5行作文～800文字程度（原稿用紙1～2枚程度）
タイトルと誰宛の手紙かを明記
父・母・夫・妻・子・上司・恩人・友人・
祖父・祖母・孫……etc

必要事項 ①氏名 ②年齢 ③性別 ④連絡先をお知らせ下さい

送り先 横浜やすらぎの郷霊園管理事務所
（郵送・FAX・メール・持参など）
〒241-0802 横浜市旭区上川井町1749-1
FAX 045-924-0239
メール info@y-yasuraginosato.jp

受付締切 平成31年2月末

